

日本未熟児新生児学会 平成24年度 総会議事録

日 時：平成24年11月25日（日）13：10～13：50

場 所：ホテル日航熊本5階「阿蘇A」（第1会場）

議 事

I. 報告事項

1. 理事長挨拶（戸苺理事長）

2. 会長挨拶ならびに報告（近藤会長）

3. 庶務報告（本間幹事）

- 新入会者・退会者のお知らせ

全会員数3,288名（昨年報告数3,194名）、非医師数：127名、名誉会員27名、功労会員48名、理事20名、評議員207名、購読会員29件）、新入会員305名、退会248名などが報告された。平成23年度末退会者は91名であった。

- 会費滞納者の件

資料に基づき平成24年度資格喪失退会予定者111名について報告された。平成22年度以降会費が未納で、2月の請求後10月に再請求を行ったが、11月1日現在振込がないため12月末日までに振込がない場合には資格喪失退会となる。

4. 各種委員会報告

1) 日本未熟児新生児学会賞選考委員会（戸苺委員長）

平成23年度受賞者の方には、25（日）13：50～14：10に第1会場にて講演を行っていただく予定。

2) フェローシップ選考検討委員会（戸苺委員長）

今年度のAJフェローシップ採用者は過去最高の61名（61演題）となった。該当演題には抄録集・プログラム集の中に★印をつけ、懇親会会場および演題発表時には「AJフェローシップ」と書かれた赤い名札を着用する。温かい声かけをと呼びかけられた。また、佐多フェローシップ留学体験記は25日（日）14：10～14：20 第1会場にて「英国滞在で気づいたこと」と題し藤岡一路先生に報告を行っていただく。

3) 薬事委員会・新生児の輸血問題小委員会（伊藤委員長・小山委員長）

- 小児等の特殊患者に対する医薬品の適正使用に関する研究（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）の24年度報告書によると、フロセミドとオクトレオチド酢酸塩のエビデンス研究、諸外国で使用されている新生児領域の医薬品を教科書レベルでの検討を行う予定である。また、早産児無呼吸発作に対するドキサプラムの使用実態調査（回答率70%、156/223）を行った。

- 新生児の輸血問題小委員会は、昨年夏に厚生労働省に新生児の交換輸血に必要な合成血-LR「日赤」の迅速な供給に関する要望書を提出した。日赤から回答があったが、25施設と北海道の7施設合計32施設が60時間以内に届けられないことになったとのことだった。それらの施設には日赤から連絡が入る予定。合成血が必要な時には日赤に遠慮なく要求を出してほしい。

4) 雑誌編集委員会（千田委員長）

平成24年受付は27編であった（平成22年：29編、平成23年：30編）。査読の際に利用していただけるようチェックリストを作成した。投稿規定を修正し、原稿用紙のマス目の印刷をしないことを定めることと、英文要旨には日本語訳をつけないことが決定した。

5) 教育委員会（中村委員長）

茨聡先生を実行委員長に迎え、鹿児島での開催を行った。参加者は63名であった。来年は、氏家二郎先生にご協力を頂き福島県で開催予定である。会期中に第16回教育セミナー優秀ワークショップ発表会がある

のでぜひ聞いていただきたい。

- 6) 社会保険委員会（中尾委員長）
平成26年度の診療報酬改定に向けて学会からの意見を集約中である。新生児搬送料等を中心に検討する予定のため何か要望があれば、知らせてほしい。
 - 7) 医療器材の安全性確認委員会（猪谷委員長）
会員から不具合を報告していただけるようにweb登録画面の構築中である。
 - 8) サーベイランス委員会（久保委員長）
現在の希有疾患の報告は増えている旨報告があった。
 - 9) 規約改定委員会（上谷委員長）
法人化について調査を行っているが、周辺の学会の状況を見ながら進めて行きたい。
 - 10) 学術集会の在り方検討委員会（梶原委員長）
今回の学術集会のアンケート調査への協力が呼びかけられた。
 - 11) 広報委員会（側島委員長）
紙媒体での名簿発行を廃止し、会員専用ページに会員検索画面を設置することとなった。
 - 12) 倫理問題検討委員会（田村委員長）
学会発表時、学会雑誌投稿の際のCOIについて検討を重ねている。
 - 13) 医療の標準化検討委員会（楠田委員長）
インタクト研究はご協力の甲斐あって登録が1,000件を超えた。ネットワークデータベースの業務の一部を本学会が担うこととなった。現在は体外循環による新生児急性血液浄化療法ガイドラインを作成している。サーファクタント補充療法ガイドラインについても作成中である。
 - 14) 医療訴訟問題検討委員会（板橋委員長）
産科医療補償制度の見直しが始まるので新生児科側でも要望を伝えて行く予定である。
 - 15) 医療提供体制検討委員会（茨委員長）
「正期産新生児の望ましい診療・ケア」の委員会報告が学会誌24巻3号に掲載された。また、早期母子接触の留意点について、理事会で承認され日本周産期・新生児医学会が中心となり8団体で共同提言された。
 - 16) 感染対策/予防接種推進室（北島室長）
昨年秋にアンケートを実施し、200施設から回答をいただいた。その結果を学術集会の演題で発表する予定である。対策室でNICUの新感染症基準を作ったので、会員に周知していきたい。NICUの全体重の感染状況を調査中なので、ご協力をお願いしたい。
 - 17) PIVKA IIワーキンググループ（楠田理事）
検査が不可能になることを懸念して、WGを立ち上げたが、新しくPIVKA IIにかわるキットが販売され検査は継続されることとなった。今年度でワーキンググループは活動終了となる。
 - 18) 男女共同参画推進委員会（和田委員長）
来年度の学術集会の際にライフワークバランスと女性医師、育児支援のワークショップを開きたい。
 - 19) 災害対策委員会（和田委員長）
日本未熟児新生児学会・新生児医療連絡会で作成した災害時の新生児医療体制復旧手順書が学会ホームページに掲載されている。また救児募金についてはニコニコキャンプ、気仙地区のワクチン接種等に使用している。引き続き支援を続ける予定である。
5. 新功労会員の件（戸苅理事長）
磯部健一先生、門井伸暁先生、川上 義先生、小西行郎先生、鈴木千鶴子先生、高田昌亮先生、松尾雅文先生、宮路 太先生、森川良行先生、李 容桂先生が功労会員に承認された。後ほど感謝状をお渡しする。

II. 協議事項

1. 平成23年度決算について（本間幹事）
本間幹事より資料に基づき説明が行われた。堺監事・船戸監事による監査報告の後、承認された。
2. 平成25年度予算について（本間幹事）
資料に基づき本間幹事から説明・報告が行われ承認された。
3. 次期会長に関する件（戸茆理事長）
次期会長に久保 実理事が承認された。
4. 次期副会長に関する件（戸茆理事長）
次期副会長に梶原真人理事が選出された旨報告があり、承認された。

III. 新 / 会長・副会長挨拶

新会長：久保 実理事（石川県立中央病院 いしかわ総合母子医療センター新生児内科）

テーマを『「恕」(思いやりの心)～赤ちゃんにやさしい医療・ケアを考える～』と題して行うとの報告があった。

新副会長：梶原真人理事（医療法人慈孝会福角病院）

2014年（平成26年）11月10日（月）～12日（水）に開催予定である。

IV. 新功労会員感謝状の贈呈

磯部健一先生，川上 義先生，鈴木千鶴子先生，高田昌亮先生，宮路 太先生，森川良行先生，李 容桂先生に感謝状が授与された。

V. 学会賞受賞者への賞状の贈呈

本田憲胤先生（近畿大学医学部附属病院リハビリテーション部）に賞状と賞金が授与された。